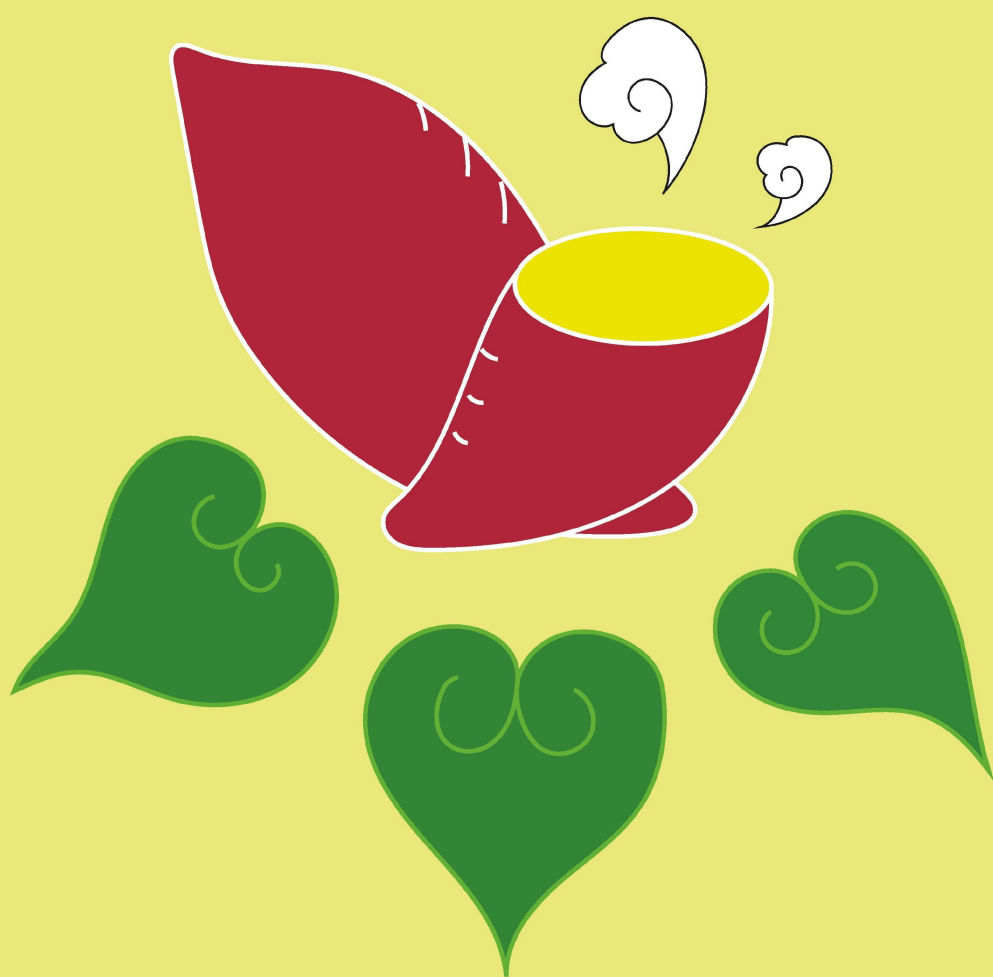


令和7年度「明治・大正いも万博」関連展示図録

かん しょ き たん
おけがわ甘藷奇譚



桶川市歴史民俗資料館

●● 「さつまいも」とは？ ●●

さつまいも(甘藷^{かんしよ})は、ヒルガオ科の植物(アサガオなどの仲間)で、メキシコやペルーといった中南米地域が原産地です。

日本へ渡来したのは、今から約400年前の江戸時代のはじめ頃であり、清^{シン}(現在の中国)から琉球^{りゅうきゅう}王国(現在の沖縄県)を経由して薩摩国^{さつまのくに}(現在の鹿児島県)に伝わったとされています。そこから日本各地へ栽培がひろがったことから、「さつまいも」という名前が定着しました。

当時桶川市域で栽培されていた品種について、川田谷村(現在の川田谷地域)岡村地区の「甘藷受検組合」が付けていた帳簿「甘藷記録簿」を見ると、戦前は主に「紅赤^{べにあか}」、「おいらん^{たいはく}」、「太白」いう3品種が栽培されていたようです。甘藷受検組合は、昭和9年(1934)に、地区内で生産されたさつまいもの品質チェックを行うことを目的として設立されました。

甘藷受検組合が昭和23年(1948)に付けていた帳簿「甘藷受入帳」を見ると、戦後直後の食糧難の時代は、「沖縄(沖縄100号)」や「茨城(茨城1号)」も栽培されていました。しかし、この2つの品種は収穫量が多い代わりに風味に難があるため、当時多くのさつまいも嫌いを生み出してしまったといわれています。



▲ 普通植物図譜

(明治39年～40年(1906～1907)、日比谷図書文化館蔵)

さつまいもは、ヒルガオ科(アサガオのなかま)ということもあり、アサガオによく似た花をつけます。

この図鑑の主編の高柳悦三郎(たかやなぎえつさぶろう)は桶川(旧川田谷村)出身の植物学者で、校訂は令和5年(2023)のNHK 朝ドラ「らんまん」の主人公である槇野万太郎のモデルとなった、植物学者の牧野富太郎が担当しています。



◀ 紅赤

明治31年(1898)に、埼玉県木崎村(現在のさいたま市浦和区)の山田いち氏によって発見され、一時期は埼玉県の主力品種でした。



◀ おいらん

大正8年(1919)に、埼玉県農事試験場で選抜された品種(花魁埼1号)です。紫色の差し色が入る華やかな見た目から「おいらん」と名付けられたとみられます。



◀ 太白

大正7年(1918)に、埼玉県農事試験場で選抜された品種(太白埼1号)です。その名のとおり、身が真っ白なところが特徴です。

●● おけがわのさつまいも栽培の歴史 ●●

現在の埼玉県域におけるさつまいもの栽培は、江戸時代にまでさかのぼります。「甘藷先生」という愛称で知られている^{あおき こんよう}青木昆陽は、^{きようほう}享保年間(1716～1736)に川越と大宮に種を植え、栽培を始めました。桶川では、その一部がもたらされ、栽培が始まったと考えられます。その後、^{てんめい}天明の^{だいききん}大飢饉(1782～1787)の際に、さつまいもを栽培していたおかげで多くの人々が助かったことから、県内での栽培が本格化しました。その後、明治時代から戦前にかけて、さらに栽培が盛んになり、県の特産品となるまでに成長しました。

明治時代には、桶川市域全体(桶川町・川田谷村・加納村)で 1,391,550 貫(約 5,200 トン)ものさつまいもが生産されていました。これは、北足立地域では大宮に次いで第2位の生産高です。また、旧桶川町(現在の桶川市中央部・^{ひでや}白出谷地域)の歴史をまとめた『桶川町史』に、桶川町のさつまいも生産量が記載されていますが、桶川町だけでも、戦前の昭和6年(1931)には 549,068 貫(約 2,059 トン)もの生産量を誇っていました。

明治時代から戦前までは、桶川市域では大量にさつまいもが生産されていましたが、戦後の食糧事情の改善や高度経済成長に伴う畑の工業用地化・住宅化の進行により、さつまいも畑は徐々に姿を消していきました。



▲ 青木昆陽先生之碑

昭和4年(1929)、さつまいものおかげで県民の生活がうるおったことに感謝を込めて、当時の農協により、大宮市(現在のさいたま市大宮区)の大宮公園に、青木昆陽の顕彰碑が建てられました。



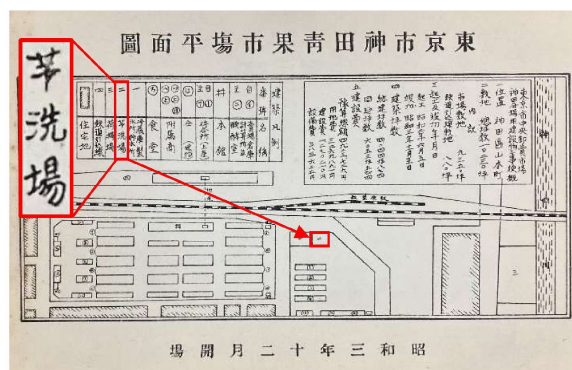
▲ さつまいも栽培の様子

上は苗床づくり、下は苗床で発芽したさつまいもの苗を、畑に移植するために摘み取っている様子です。約20～30年前までは、桶川市内ではごくありふれた風景でした。

●● さつまいものゆくえ ●●

現在の桶川市域で栽培されたさつまいもは、桶川駅へ集められ、鉄道で出荷されていました。明治44年(1911)の桶川駅の時刻表「^{おけがわえきはつきしゃじこひょう}桶川驛發汽車時刻表」を見ると、秋葉原駅行きの貨物列車が発着しています。秋葉原駅付近には、平成2年(1990)まで、江戸時代以来の青物市場である^{かんだせいかしじょう}神田青果市場がありました。桶川市域で生産されたさつまいもは、神田青果市場に出荷されたと考えられ、小売店をとおして各家庭へ売られていったとみられます。

さつまいもは、安価で栄養価が高いことから、人々に広く重宝されました。その反面、手に入りやすいがゆえ、いかにバリエーションをつけて美味しく食べるかということに人々は苦心していたようです。明治36年(1903)に^{むらいげんさい}村井弦斎が世に送り出し、ベストセラーとなったグルメ小説^{くいでうらく}『食道楽』にも「さつまいもの梅干し和え」といった、変わり種のさつまいもレシピが多数紹介されています。また、明治39年(1906)に出版された^{てがるいもがしせいほうひゃくしゅ}『手軽甘諸菓子製法百種』にも、まんじゅうなどのほか、「^{いもかまぼこ}甘諸蒲鉾」や「^{いもこんがまき}甘諸昆布巻」といった風変わりなお菓子のレシピが載っています。



▲ 東京市神田青果市場開場記念(絵葉書) (昭和3年(1928)、個人蔵)

東京の神田地区(現在の秋葉原駅周辺)には、江戸時代以来、野菜や果物を取り扱う青物市場がありました。東京市神田青果市場は、神田の青物市場を再編・整理したもので、昭和3年に秋葉原駅の西側に設置されました。市場は平成2年(1990)に閉鎖され、現在は商業・オフィスビル(UDX)になっています。絵葉書に同封されている市場の案内図を見ると、「芋洗場(いもあらいば)」があったことがわかります。



▲ 『食道楽』で紹介されているさつまいも料理の再現

左から順に、炊き込みごはん、そばろがけ、梅干し和えです。再現にあたっては、「紅赤」を使用しました。実際の調理は、元学校給食調理員の熊井今子さんに協力していただきました。

◀ 手軽甘諸菓子製法百種 (明治39年(1906)、個人蔵)

さつまいもを使った100種類のお菓子のレシピが紹介されています。普段手に入りやすいさつまいもを、いかに工夫しておいしく食べるかということに人々が苦心した結果が、このレシピ本に掲載されているお菓子の数々なのかもしれません。

●● さつまいものこれから ●●

主に明治時代から戦前にかけて、桶川市域ではさつまいもが大量に生産されていた歴史をご紹介します。

江戸時代、桶川市域では紅花が盛んに栽培されており、「桶川^{おけがわえんじ}胭脂」として世に広く名が知られていましたが、明治時代以降は、安価な化学染料におされ、紅花はほとんど生産されなくなりました。その隙間を埋めるようにして、さつまいもの栽培面積が増えていったと考えられます。

一時期は埼玉県内でも有数の「おいもの街」であった桶川ですが、現在は畑の住宅化などが進み、さつまいもの生産をなりわいとしている農家がかかなり少なくなっているため、一連の歴史に驚かれた方も多いかもしれません。

近年、全国各地でさつまいものグルメイベントが盛んに開催されているほか、秋口から冬にかけては、コンビニエンスストアやチェーン店のカフェなどが、さつまいもスイーツ商戦を繰り広げています。また、市内でも、さつまいものスイーツを扱っているお店が何軒もあります。このことから、さつまいものファン層がかかなり厚いことがうかがえます。

地産地消が叫ばれる今こそ、地元桶川の歴史ある農産物「さつまいも」に目を向けてみてはいかがでしょうか。



▲ 収穫前のさつまいも畑

【謝辞】

本企画展示及び図録の刊行にあたっては、下記の方々から協力を賜りました。記して感謝の意を表します。
(敬称略、五十音順)

熊井 今子、千代田区立日比谷図書文化館、濱口 皓

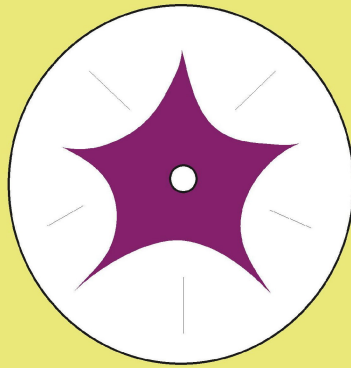
【参考文献】(五十音順)

一般財団法人いも類振興会 2010『サツマイモ事典』同振興会

稲村 坦元・荻塚 一三郎 1955『桶川町史』桶川町

桶川市 1988『桶川市史 第六巻 民俗編』同市

桶川市 1990『桶川市史 第一巻 通史編』同市



- 1 本書は、令和8年1月13日（火）から2月8日（日）まで開催する、令和7年度「明治・大正いも万博」関連展示「おけがわ甘藷奇譚」の展示図録です。
- 2 本展示及び図録は桶川市歴史民俗資料館の飯塚 真人が企画・構成しました。
- 3 資料の展示順序と図録の掲載順序は異なります。また、図録に掲載していない展示資料・展示していない図録掲載資料もあります。
- 4 展示資料及び図録掲載資料の無断転載はおやめください。

令和7年度「明治・大正いも万博」関連展示図録
「おけがわ甘藷奇譚」

発行日 令和8年1月13日

編集・発行 桶川市歴史民俗資料館

〒363-0027

埼玉県桶川市川田谷 4405-4

（桶川市川田谷生涯学習センター内）

☎ 048-786-4030

印刷 桶川市歴史民俗資料館